

## 第5回関西圏域の展望研究会小委員会の開催結果について

### I 会議次第

- 1 開催日時：平成27年8月3日(月) 13:00～14:50
- 2 場所：関西広域連合本部事務局大会議室
- 3 出席者：大西裕委員長、大南信也委員、白石真澄委員、砂原庸介委員  
梅原利之研究会委員、木村陽子研究会委員、坂上英彦研究会委員
- 4 議事：関西圏域の展望研究 報告書（素案）について

### II 開催結果

#### 1 概要

第3回及び第4回小委員会で議論した環境政策、農林政策等を踏まえ、関西圏域の展望研究会委員も参加して、報告書（案）のとりまとめについて議論を行った。

今後は、今回の議論をもとに報告書（案）を作成し、8月24日の第4回研究会にて、議論いただくことを確認した。

#### 2 主な発言内容

##### (1) 報告書（素案）について

- ・ 首都機能移転について、徳島県では消費者庁の話があるが、他の府県への移転についても追記したほうが良いのではないか。また、農林水産業の話は、結局は、農村景観が着地型観光の目玉になり、ツーリズムに発展していくと思うが、循環の問題として押さえるべきである。 (大南委員)
- ・ まとめ図を最初にもってきたほうが良い。また、横文字が多いと思うので、日本語に置き換えてほしい。全体をキーワード5つぐらいで表したらどうか。報告書の言葉遣いも改めて点検をお願いしたい。 (白石委員)
- ・ 読んでもらうことや、どういうふうに使ってもらったらいいかを考えたほうが良い。幕藩体制の話から入るのはどうか。政策コンセプトを貫く理念は、いくつかのポイントに絞ったほうが良いのではないか。また、書かれていることのレベル感にばらつきがある。 (砂原委員)
- ・ 防災庁の話は、議員内閣制で総理大臣が責任を持たないといけませんが、関西に置くときに、首相からどれくらいの独立性を考えるのか。 (砂原委員)
- ・ 金沢は、新幹線が開業したとたんに東京圏になった。福井まで開業すると、同じように東京圏になる。問題は、四国。瀬戸大橋は、新幹線が通れる規格になっている。四国は、今、四国新幹線のことで大変盛り上がっている。四国は、本来は関西圏だが、今は、飛行機の影響で東京圏である。四国は、全体で400万人いるが、関西からは見えていない。あらゆるものの原点は新幹線である。 (梅原委員)

- ・ 関西広域圏のセルフイメージをはっきり書く必要がある。また、観光・文化の記載については、製造業からの転換ではなく、強化ではないか。都市間の経済連携などは、ほかのところでもやっている。関西は、実績があるので書き方を工夫してほしい。あと、高齢者の就労についても入れたほうがよい。**(木村委員)**
- ・ 報告書の内容を一言で表紙に書いたほうが、思いが明確に伝わるように思う。また、日本の文化戦略を示す博物館がないので、そういったものを関西につくってほしい。そして、文化首都である関西の中味、考え方を示してほしい。シンクタンク機能を担う事務局からなるプラットフォームの話は、もう少し具体的に書いてほしい。**(坂上委員)**
- ・ 我々では理解できるが、一般には理解できない言葉、例えば6次産業化などは、言い換える必要があると感じた。**(大西委員長)**
- ・ 生活のコストが低く給料が高くなくても暮らしてゆける、失敗してもやり直せるなど、全体を貫くようなメインのコンセプトと個々の話がどういうふうにつながっているかわかるようにしてほしい。また、関西で、人だけでなく、どうしたらお金がまわるのか考える必要がある。別に大きな資本を排除するのではなく、小さいが地元にはいいものがあるというような情報が流れる仕組みなどが重要だと思う。**(砂原委員)**
- ・ 双眼構造は、東京の一極集中を阻止することであり、関西が本気で言うのであれば、新幹線のことを本気で強調すべきである。一極を担うのなら、北陸新幹線を米原に早くつなぐことと四国新幹線を岡山に接続することが必要である。**(梅原委員)**
- ・ 報告書には、ほかのものにはない秀逸なものもあるので独自性を強調してもいいのではないか。ほかの地域が先行しているものは、それを基盤に広域連合として、つくりあげる工夫がいるのではないか。**(木村委員)**
- ・ まとめ図については、「コンセプト」を先に書いて、「理由」があったほうがわかりやすいと思うので、左右を反転し、上下を入れ替えるなど、見せ方や順番を工夫したほうがいい。**(坂上委員)**
- ・ 分量は、これだけのものが必要なのか。タイトルも含め、読んで楽しい内容にしたらどうか。**(白石委員)**
- ・ 誰に読んでもらうのかを整理しておく必要がある。20代から80代までのみんなに読んでもらうのか、それとも行政関係者中心に読んでもらうのかによって、言葉の使い方も変わってくるし、まとめ方も変わってくる。ニセコ町の予算書は町民のすべての方に読みやすいようにつくられている。**(大南委員)**
- 報告書は、基本的には、関西広域連合として今後作っていく計画等に反映していきたい。また、各府県市も、これを参考にしていけるように考えているので、対象は、主に行政である。**(事務局)**
- ・ 書き方について、ほかの地域に同じようにあてはまるものと関西独自のものがある。人が来やすい状況をつくる必要や、ミックスコミュニティなどは多くの地域に共通する議論だろう。関西独自の、医療や文化観光など伸ばす部分や防災などの制約は、分けて書いたほうが読みやすいと感じた。**(砂原委員)**

## (2) 新たに追加した環境政策、農林政策などについて

- ・雇用就農と起業就農の書きぶりは分かりにくいように思う。 (大西委員長)
  - ・政策コンセプト③だけ他とは違う構造で記載されており、「グローバル経済」と「ローカル経済」, 「小さい産業から創造産業へ」と「農林水産業」は統合したほうがよい。 (砂原委員)
  - ・関西は、LCCに買い叩かれていると聞いているので、誘客などの協力体制をつくっていくことが重要。 (木村委員)
  - ・ポートランドは食事がおいしいので子どもは大人になって帰ってくる、というのは、食事だけでなく、ほかに魅力があるから戻ってくるのではないか。都市の利便性や大学があるからなど、もう少し、丁寧な書き方をお願いしたい。 (白石委員)
  - ・ポートランドの話は、まちの誇りやシビックプライドなどの要素についての話をしている。農林水産業のところは、もう少しコンパクトに書いたほうがよい。 (大南委員)
  - ・宮崎先生のおっしゃった農業政策、食料政策、農村政策を重点的に書いて、あとは参考資料などにしていくのがよい。 (大西委員長)
  - ・報告書は、体言止めが多いのが気になる。また、医者が多いから質も良いといえるわけではなく、関西が先進医療地域になるというのは因果関係がないと思う。報告書に記載するなら、ライフサイエンスと結びつけるのがいいのではないか。 (木村委員)
  - ・バイオマスは、民間の方から、自治体は供給がしっかりしていないと聞いているので、供給体制のことを記載してほしい。 (木村委員)
  - ・五百旗頭座長の「関西広域連合への期待」は、座長が、ソフトに、夢を語るようなことを柔らかく記載するほうがよい。 (白石委員)
- 五百旗頭座長の肉声が響くようなものを仕上げさせていただくのがベストだと考えている。座長も、本日の結果をほしいと要望されており、24日の研究会までに、ご自分で書かれることをおっしゃっていただいている。この部分は、改めて、五百旗頭座長にお願いしたいと考えている。
- 報告書のプロジェクトや提案について、関西独自のものや、オリジナルなものを重要プロジェクトとして、最後にまとめさせていただきたいがどうか。
- (事務局)
- ・そういったものは、最初に出したほうがよい。 (坂上委員)
  - ・最後に、今後、事務局だけで閉じないカタチで何かできないか。グランフロントのアジア太平洋研究所や、関経連の経済団体と連携するなど、ほかのシンクタンクとの提携などを考えていただきたい。また、大学などと協力関係を構築し、情報共有や業務委託することなどを検討してほしい。 (大西委員長)